11月9日(木)～15日(水)は 秋季全国火災予防運動

平成29年度全国統一防火標語

火の用心　ことばを形に　習慣に

これから寒さとともに空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節になります。尊い命と貴重な財産を火災から守るため、火災予防の意識を高めましょう。

火災予防運動の一環として、村内の小学６年生から防火ポスターを募集したところ、応募総数202点の中から右の２作品が最優秀として選ばれました。これらの作品は、ポスター化し事業所や公共施設等に配布・掲示します。

【問い合わせ】ひたちなか・東海広域事務組合(☎271-0735)

照沼 龍星さん
(白方小学校６年)

三木 俊英さん
(村松小学校６年)

ふるさと歴訪 ～歴史を再発見～

佐竹郷と村松宿

茨城大学教授　高橋　修

新羅三郎義光の孫・昌義が久慈郡佐竹郷(中世は佐都西郡)を本領として留住・土着したのは12世紀半ばごろのことである。「佐竹」という地名はいつの頃か消滅してしまうが、「佐竹」を寺名に残す佐竹寺の所在などから、その領域は、東西を里川と山田川、南を久慈川に囲まれた、現常陸太田市街地の南方一帯に比定されている。昌義の居城と伝えられる馬坂城跡が所在し、その祈願寺とされる佐竹寺が建つ辺りが佐竹郷の中心部である。かつては源氏の氏神を祀る八幡社も鎮座した。後の笠間街道が常陸太田市街から西に延びている。南部には、『常陸国風土記』に記載のある軽直里麻呂築堤の池に起源する鶴ケ池からの灌漑による条里水田が広がっていた。

現在の佐竹寺の伽藍は常陸太田市街の方向、すなわち東方を向いているが、これは水戸光圀の時に改修されたものである。それまでは南を正面としており、現在も「正面坂」の遺称地を伝える。佐竹寺の本尊は十一面観世音菩薩であり、観音浄土・補陀落山のある南方を向くのが本来の在り方であろう。佐竹寺から南方に下る古道が、今も残る巡礼坂である。この道筋は、かつて村松に至る幹線だったといわれている。十返舎一九の『諸国道中金草鞋』の中で、常陸の霊場を巡礼する弥次・喜多は、佐竹寺からそのまま村松宿に向かっている。同書の中には「御詠歌」として「ひとふしに ちよをこめたる さたけ寺 かすミかくれに 見ゆるむらまつ」の歌が掲げられている。近世には確実に佐竹郷と村松宿とが直結していたことが分かる。

虚空蔵尊の門前町・村松宿の起源が中世までさかのぼることは確実であろう。佐竹氏が、内陸部にある佐竹郷を特別な所領として領有する条件の一つとして、太平洋航路とも接続できる村松とのアクセスを、意識していたのかもしれない。

広報とうかい №307 平成29年10月25日発行　▼発行 東海村(村長公室広報広聴課)
〒319-1192 那珂郡東海村東海３丁目７番１号 ☎029(282)1711 http://www.vill.tokai.ibaraki.jp

UD FONT